

明治4年の長崎...

(一八七一年)

ちよつとした

騒ぎが起きて

いました

わたしの
山高帽は
入ったかね

それが
ご隠居
実は...

帽子

なにっ!
一つもない

はいっ
大阪の業者が
みな買い占めて
いったので
ございます

この年「断髮令」をみこして
大阪の洋物商が

長崎に帽子と襟巻マフラーを買い付けるため
長崎に押しかけたのです

わずか2日で

長崎市中の西洋帽子が
すべて買い占められ
品切れになってしまいました

おいの
カンカン帽は

すみません
また必ず
仕入れますけん

帽子

帽子



当時の長崎の帽子屋

男性の正装は
シルクハット



当時の長崎の
アルバムより

山高帽は
準正装として
使用されてきました



長崎では
この山高帽は今でも
秋の大祭「おくんち」のとき
羽織・袴姿と共に
欠かせぬものです

女性の帽子は
バラエティに
富んでいました

イギリスで
女子校の
夏の制帽として
使われた
ポーター(麦わら帽)は
日本ではカンカン帽と
よばれました

長崎旧家の
アルバムより



船遊びや
車に乗る時は
この帽子にレースをかぶせて
いました

羽根やリボン
花などをあしらひ
おしゃれを
競っていたそうです





不思議と着物とも
相性がよく
当時の写真に
残っています

カンカン帽は
男女を問わず
日本で愛用されました

大正4年(1916年)大波止の風景



個 人



大正時代に入り
モダンガール・モダンボーイ
いわゆるモガ・モボの時代が
やってくる
飛躍的に
洋装と帽子というスタイルは
普及していきます

(当時の長崎県を宣伝する
パンフレット)

大黒帽をかぶった
長崎の
女子校生



当時のモガ・スタイルの女性



時代とともに
いろいろな流行を
つくりながら
愛されている
帽子



明治時代
長崎は日本の西洋化の窓口で
オシャレ発信地だったので



カンカン帽をかぶり
雲仙でゴルフをする
男性

